

◎今週の御言葉 「信仰による義人」(ローマ人への手紙1章16節～17節)

「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」(1:16) 仲森文穂

○パウロは、Iコリント1:22で「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシヤ人は知恵を探しますが、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます」と言っています。ご利益や教訓を求める人たちに、十字架で死に、復活されたキリストを信じるよう説くのは、本当に困難です。しかしパウロは「福音を恥としない」と言います。さらに彼は今日の1:16で「福音はユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力です」と語ります。

○内村鑑三先生はロマ書講義の中で、「この御言葉は4段階に読むべし」と示唆しています。まず「福音は力です」と読み、次に「福音は神の力です」と読みます。3段階目は「福音は救いをもたらす神の力です」と読み、最後は「福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力です」と読むのです。なるほど、こんな風に一つずつ大事な言葉を加えて行けば、より強くより深く御言葉の意味が迫ってくる思いがしますね。

○人は、自分で努力せず、救いを得るのは厚かましいと考えます。しかし神様の救いは人の力ではなく、福音の力です。福音は信じる者すべてに救いをもたらす神の力なのです。信じて求めさえすれば、その救いは、すべての人に与えられます。ローマ3:23以下に「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです」とあります。親は子が可愛いから叱るし、ごめんなさいと謝れば赦します。私たちも神様の前で、この子どものような存在ではないでしょうか。「善を行うものはいない。一人もいない」と詩編14編にあるように、私たちは神様の前に断罪されるべき存在ですが、イエス・キリストの十字架を信じることにより、その罪を赦され、正しい人(義人=罪なし)と見做していただける、そんな幸いを得ているのです。心から感謝したく思います。